

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 8 月 23 日	
所属部局・職	公益財団法人日本モンキーセンター 飼育技術員
氏名	辻内 祐美

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
東京国際フォーラム (〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-5-1)	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
丸の内キッズジャンボリー2014 TIF ワンダーキャンパス「サル・ヒト・キミ研究室」出展	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 26 年 8 月 11 日 ~ 平成 26 年 8 月 12 日 (2 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>毎年東京国際フォーラムで開催されている「丸の内キッズジャンボリー」に、PWS、WRC、JMC の共同で「サル・ヒト・キミ研究室」と題したブースを出展し、そのお手伝いをさせていただきました。密林をイメージしたブースには、テントやシュラフ、調査機材、剥製標本、骨格レプリカなどが所狭しに配置され、それぞれを実際に触ったり、使ったりできる、遊び心満載の空間となりました。私は、その中の霊長類の能力に挑戦できるサルリンピックのコーナーを担当しました。ショウガラゴの垂直跳び、ゴリラの握力、チンパンジーの瞬間記憶力、この三種目に挑戦出来る体験型のコーナーです。霊長類の能力の凄さを伝えられるとともに、子どもたちの好奇心と素直さに触れ、充実した時間を過ごすことが出来ました。やはり一番人気の種目はチンパンジーの瞬間記憶力で、何度も夢中で挑戦する子供たちが沢山いました。また、PWS の方々をはじめとして色々な方々と一緒に活動し、研究者の方々のミニ講座を拝見させていただいて、自分自身の視野や考えを広げる良い機会となりました。今回感じた、“研究心”や“伝えるということ”を日々の業務にも生かしていきたいと思えます。私自身、子どものときにキッズジャンボリーがあったら行きたかったな。というのが率直な感想です。この機会に出会った子供たちの輝く未来の“きっかけ”に携わることが出来て、良い経験となりました。</p>	
	
ショウガラゴの垂直跳び	チンパンジーの瞬間記憶力
6. その他 (特記事項など)	